



お遍路さんから 経済を見る。

経済学部 稲田教授ゼミ



香

川に住んでいれば、「お遍路さん」の白装束姿を見たことが誰しも1度はあるでしょう。ところが「お遍路さんは一日何人くらいお寺に参っているの?」「お遍路さんってどんな人が多いの?」などの具体的な話となると、とたんに私たちのイメージはハッキリしないものになります。

稲田教授のゼミがお遍路さんをテーマにしたのは、お遍路を研究テーマに考えていた教授がそういったデータが存在しないことに気付いたのがきっかけ。

「今まで、お遍路さんの数については『1年を通して見ると差がある』と何となく分かっていたのですが、一番札所・霊山寺のノートなどをとに大まかな計算が行われている程度だったんです。そこで札所で定点観測を行い、ニューラルなアンケートやデータを1年間積み上げてみることにしました」

ゼミの学生14人はそれぞれ分担を決め、1ヶ月に1度根香寺で朝7時〜夕方5時まで1時間ごとに交代で山門に立ちます。お遍路さんはどこからどんな手段でやって来て、どのような目的で予算いくらの旅をしているの? 1時間ごとの参拝客をカウントし約15項目のアンケートを取りつづけると、浮かび上がるのはお遍路さんの等身大の姿。また、それぞれの札所の周辺にどのような施設があるか実際に各札所に赴き、その足と目で現場の様子を調査することで土産事情などの思わぬ発見もあるのだそう。「お遍路さんには家族連れが多い」「この時期に参拝する



お遍路さんのこと、
どのくらい
知っていますか？

KEYWORD

〔四国遍路〕

祈願などのため四国の札所88箇所を巡礼すること。1回で全ての札所を回る『通し打ち』や複数回に分ける『区切り打ち』などの様々な方法で巡礼は行われており、四国ではこの霊場巡りを『遍路』、巡礼者を『お遍路さん』と呼ぶ。

数が減っている理由は…」様々な考察がゼミを
行き交います。

これらのデータはお遍路文化が四国の経済に
どのような効果を及ぼしているのかを考察する
のにも貴重な資料となるため、委託という形で
協力する『中小企業基盤整備機構』をはじめ、
様々な機関もその内容を興味深く見守っていま
す。データやアンケートを分析すれば、今のお
遍路の抱える問題や、改善への糸口が見つかる
かもしれません。それはお遍路事情だけでなく、
観光など様々な要素に繋がっていきます。

「経済効果に即座に反映できる簡単な結論ではな
いでしょうが、お遍路文化を知る第一号資料と
いうことで、面白いものが見えてくると思いま
す」と稲田教授。根香寺での定点観測や各札所
への移動はもっぱら教授の車、2泊3日くらい
のちよつとした調査旅行になることもありますが、
「旅行のようで楽しいし、普通に生活してい
るとお話できない世代の方と話ができるのは貴
重な体験です」とゼミ生たちも調査にやりがい
を感じているよう。すでに中間発表の段階で
「おっ」と思う分析が学生の間から飛び出して
おり、調査の完了にも期待が高まります。